

## 27年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成27年9月1日～ 27年9月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は15社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
入荷動向	スギ	5.6	11.1	27.8
	ヒノキ	△ 28.6	7.1	7.1
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	25.0	0.0	0.0
消費動向	スギ	13.9	22.2	11.1
	ヒノキ	△ 21.4	△ 7.1	△ 7.1
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
在庫動向	スギ	△ 30.6	△ 16.7	0.0
	ヒノキ	△ 30.0	△ 20.0	△ 10.0
	カラマツ	0.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ原木の入荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは9月の減少が、10月、11月は増加。カラマツは3ヵ月連続して横ばい。トドマツは9月の増加が、10月、11月は横ばい。

・スギ原木の消費は3ヵ月連続して増加。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは横ばいで推移。

・スギの在庫は9月、10月の減少が11月は横ばい。ヒノキは3ヵ月連続して減少。カラマツ及びトドマツは横ばいで推移。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	27/9月	10月	11月
スギ	30.6	30.6	25.0
ヒノキ	39.3	21.4	21.4
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	△ 25.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキ原木の価格は強含み。

・カラマツは横ばい。トドマツは9月の弱含みからその先横ばい。

## モニターからのコメント

## ' (原木荷動き)

・トドマツ原木に過剰感があり、価格を500円/m3下げた。国有林の委託販売も予定価格不調、応札なしなどが多数あり、これから出材期なので入荷に危惧している。消費は、前月同様停滞感はない。特に中国向けの輸出が落ち込んだことが消費のやや減少に影響している（北海道）。

・トドマツ順調に入荷、新工場の稼働で消費量増加、秋需の気配も。消費増で在庫はたまらない（北海道）。

・長雨で原木の出材不足が長期化。一般材の市況が悪いので、減産継続中（関東）。

・天候、価格の影響もあり、出材量の回復が遅れている。また、バイオマス発電用に原木が動いているため、市場に出る並材は少ない。在庫量は大きく変わらず。劣化の少ない季節に仕入増、在庫増で計画（関西）。

・9月に入ってスギ丸太の出材が増えて来た。天候が回復するにつれスギ、ヒノキの出材は増える見込み。7月頃より目に見えて荷動きが回復、但しヒノキは半製品の在庫がまだしっかりあるためスギ主体に製材している。入荷が増え始めたが、消費が上回るため、在庫はたまらない（中国）。

・出材減で入荷少ない。秋需も控え、入荷困難な材も出そう。原木少なく、入荷即消費の状態。在庫1～2日分（中国）。

・九州エリアに関しては、天候さえ良ければそれなりに出材は多くなるのでは。消費はバイオマス事業の相変わらずの原木不足感がどこまで引っ張るかによるのでは（九州）。

・10月、11月は記念市多数あり、天候も回復し、入荷やや増加して行く。生産変わらず、在庫はやや増加して行く（九州）。

・入荷は、天候の回復と同時に、徐々に増加傾向になって行く見通し。後は丸太の相場次第（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツ原木は500円/m<sup>3</sup>の値下げ（北海道）。
- ・トドマツ変わらず（北海道）。
- ・各メーカーの原木在庫が減っている中、製品需要が増えて来ているが、原木の供給が回復していないため、若干ではあるが、原木価格が上昇気配である（関西）。
- ・出材が増えると相場は安定する。製品単価がなかなか戻らないので（中国）。
- ・原木不足で価格上昇傾向（中国）。
- ・メーカーの素材不足感も一旦落ち着きつつあり、素材も市場に増えてくるが、良材を欲しがるメーカーはあまり材価を落とそうとしないのでは（九州）。
- ・9月は雨が多いため原木価格はやや上昇。10月、11月は製品の動向次第（九州）。
- ・製品の状況にもよるが、来月以降、丸太の材質の時期も良くなるため、相場も横ばいからやや上昇で推移して行く見通し（九州）。

## 27年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
生産動向	スギ	11.1	11.1	11.1
	ヒノキ	△ 7.1	14.3	0.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	0.0	0.0	0.0
出荷動向	スギ	37.5	25.0	18.8
	ヒノキ	21.4	28.6	14.3
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	0.0	△ 25.0
在庫動向	スギ	△ 43.8	△ 43.8	△ 25.0
	ヒノキ	△ 50.0	△ 50.0	△ 41.7
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0

・スギ製材品の生産は3ヵ月連続してやや増加。ヒノキは9月の減少が、10月は増加、11月は横ばい。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツは3ヵ月連続して横ばい。

・スギ及びヒノキ製材品の出荷は3ヵ月連続して増加。カラマツは3ヵ月連続して減少。トドマツ製材品は9月の減少が、10月横ばい、11月は減少。

・製材品の在庫は全品目で3ヵ月連続して減少。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
スギ	柱角 KD10.5×3	5.6	16.7	22.2
	柱角 KD12×3	0.0	11.1	11.1
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	6.3	12.5	12.5
	タルキ	7.1	7.1	7.1
	間柱	11.1	11.1	11.1
	ヌキ	7.1	7.1	0.0
	平割	12.5	6.3	12.5
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	12.5	18.8	12.5
	柱角 KD12×3	12.5	12.5	12.5
	土台角 10.5×4	12.5	18.8	12.5
	土台角 12×4	12.5	12.5	12.5
	通し柱 12×6	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	10.0	10.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ製材品の出荷価格は、柱角、母屋角、タルキ、間柱、ヌキ及び平割は総じてやや強含み。通し柱、桁角及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・ヒノキ製材品の出荷価格は、通し柱が3ヵ月連続の横ばいを除いて、それ以外は総じて強含み。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## (製材品荷動)

- ・トドマツに急ぎの注文が入り出す。秋需に向け生産を上げるが、追いつかないかも（北海道）。
- ・生産はやや減。部分的に好調な市場へ出荷。生産は少なくなっているが、在庫はそれ以上に減少（関東）。
- ・原木入荷に長雨の影響大（関東）。
- ・生産は、連休もあり稼働日数減。スギ、ヒノキ共に受注残の出荷あり。出荷量増と稼働日数により少し在庫は減る（関西）。
- ・9月前半、相場が高い。様子を見ながら仕入れる。出荷量を見ながら消費。大きな変化ないと予想（中国）。
- ・生産・出荷は大きく変化なし（中国）。
- ・ヒノキ柱・土台が不足気味になってきた様（半製品の在庫がようやく減り始めた）。10月まではプレカット業界も仕事がありそう。そこから先は不明（中国）。
- ・丸太少なく生産に悪影響。出荷にも悪影響。ヒノキ製品は在庫少ない。スギ3m、12cm角のみ在庫豊富（中国）。
- ・少しずつだが見積り依頼も増えて来た。後はどのタイミングで動き出すか次第（九州）。
- ・生産変わらず。販売はやや増加しそう。生産と販売のバランスが少し違ってくる（九州）。
- ・生産のやや減少は、原木の入荷が少し悪いため（九州）。

(製材品出荷価格動向)

- ・トドマツサンギの価格は変わらず（北海道）。
- ・唱えとして、値上げの雰囲気出していく。原材料も上がっているので製品も上げたいところ（関西）。
- ・9月前半が、先3ヵ月の見通しの中で高いと予想（中国）。
- ・ヒノキは、柱は横ばい、土台は相場は上がり様子だが、弊社は上げないので横ばいと予想（中国）。
- ・10月位からスギ、ヒノキ共多少値戻しする。10.5cm角 3m, 4mともヒノキは不足し、値戻しが期待できる（中国）。
- ・原木価格上がるも、川下は製品価格の上昇を受け入れない。スギも同様（中国）。
- ・ヒノキの需要拡大で価格の上昇を期待（九州）。

## 27年9月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ及びNZラジアータ丸太の仕入は、3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の仕入は9月の減少が、10月は増加、11月は横ばい。NZラジアータは3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ丸太の在庫は9月の増加が、10月、11月は横ばい。NZラジアータは3ヵ月連続して横ばい。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	27/9月	10月	11月
米マツ丸太	0.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ丸太	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

・米マツ丸太の価格は9月、10月の横ばいが、11月は弱含み。

・NZラジアータ丸太の価格は3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

(原木荷動)

・NZラジアータ丸太の入荷、消費、在庫に変化なし（中国）。

(原木価格動向)

・NZラジアータ丸太の価格に変化なし（中国）。

27年9月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		27/9月	10月	11月
生産動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向	米マツ製材品	△ 50.0	50.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向	米マツ製材品	50.0	0.0	0.0
	NZラジアータ製材品	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ製材品	—	—	—
	北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は9月の減少が、10月は増加、11月は横ばい。NZラジアータは3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の出荷は9月の減少が、10月は増加、11月は横ばい。NZラジアータは3ヵ月連続して横ばい。

・米マツ製材品の在庫は9月の増加が、10月、11月は横ばい。NZラジアータは3ヵ月連続して横ばい。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	27/9月	10月	11月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	0.0	0.0	0.0
NZ梱包材(割角)	0.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材	0.0	△ 50.0	△ 50.0
その他	—	—	—

・米マツ平角、正角及び小割の出荷価格は3ヵ月連続して横ばい。

・NZラジアータ梱包材(割板)は3ヵ月連続して横ばい、同(割角)及び土木用材は9月の横ばいから先行き弱含み。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・NZラジアータ製材品の入荷、出荷、在庫に変化なし(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・NZラジアータ製材品の価格は、多少需要減でやや下落(中国)。